

9. 環境団体アンケート

環境団体アンケートの結果概要

1. 調査概要

- 1) 期間 2025年5月9日～26日
- 2) 対象 市川市環境登録団体及びこれまでに要望、提案、協力いただいた団体
(回答数：18団体(送付団体数：24団体))
- 3) 概要 設問①団体の概要(団体情報(団体名、代表者名など)、団体の活動状況、団体の活動する上での課題、二次戦略の施策との関連)
設問②第二次生物多様性いちかわ戦略の施策に対する意見

2. 調査結果

設問① 団体の概要

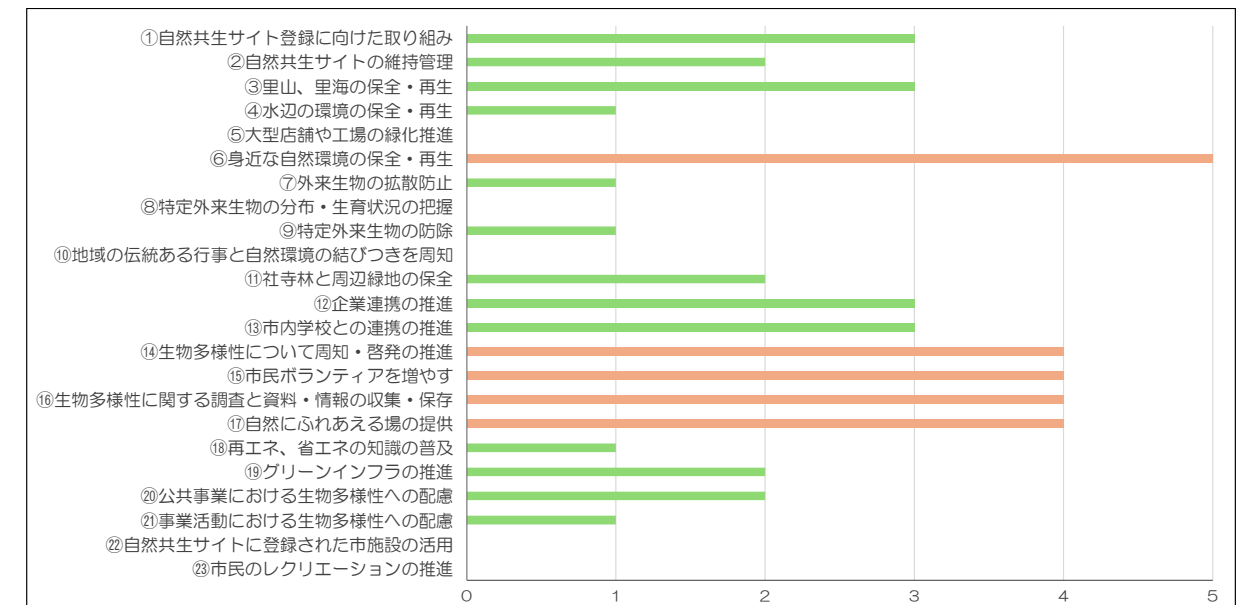
「団体の活動状況」、「団体の活動する上での課題」、「二次戦略の施策と団体との関連」について、回答数の多い順に並べ、上位の者を下表に示しています。

質問	回答結果(上位3位まで表示)
【記述式】 団体の活動状況	※記述式の回答を類型化して整理しました。 1. 維持管理、整備……………10団体 2. 自然復元・再生・保全……………9団体 3. 普及・啓発活動……………6団体 3. 調査……………6団体
【記述式】 団体の活動する上での課題	※記述式の回答を類型化して整理しました。 1. 高齢化・人手不足……………11団体 2. 市の取り組み不足……………8団体 3. 普及啓発不足……………3団体
【選択肢+記述式】 第二次生物多様性いちかわ戦略の施策と団体との関連 【選択肢】 第二次生物多様性いちかわ戦略骨子案施策案一覧 ①自然共生サイト登録に向けた取り組み ②自然共生サイトの維持管理 ③里山、里海の保全・再生 ④水辺の環境の保全・再生 ⑤大型店舗や工場の緑化推進 ⑥身近な自然環境の保全・再生 ⑦外来生物の拡散防止 ⑧特定外来生物の分布・生育状況の把握 ⑨特定外来生物の防除 ⑩地域の伝統ある行事と自然環境の結びつきを周知 ⑪社寺林と周辺緑地の保全 ⑫企業連携の推進 ⑬市内学校との連携の推進 ⑭生物多様性について周知・啓発の推進 ⑮市民ボランティアを増やす ⑯生物多様性に関する調査と資料・情報の収集・保存 ⑰自然にふれあえる場の提供 ⑱再エネ、省エネの知識の普及 ⑲グリーンインフラの推進 ⑳公共事業における生物多様性への配慮 ㉑事業活動における生物多様性への配慮 ㉒自然共生サイトに登録された市施設の活用 ㉓市民のレクリエーションの推進	1. ⑥身近な自然環境の保全・再生……………6団体 1. ⑰自然にふれあえる場の提供……………6団体 3. ③里山、里海の保全・再生……………4団体 3. ⑭生物多様性について周知・啓発の推進……………4団体

※「第二次生物多様性いちかわ戦略の施策と団体との関連」は、施策案の中より関連性が高いとして選んだ団体の数が多い施策を示しています。

設問② 第二次生物多様性いちかわ戦略の施策に対する意見

「第二次生物多様性いちかわ戦略骨子案の施策の中で、市川市で力を入れて取り組むべき施策」として選んだ団体が多かった上位5件をオレンジ色で示しています。



上位5件について、施策を選んだ理由や要望の一部抜粋を下記に示します。

施策⑥身近な自然環境の保全・再生

- 生物多様性を進めるためにある程度の広さのある緑地、連続性のある緑地が必要。民有地の買取りを進めて欲しい。
- ナラ枯れ病による枯損木の処理などは安全確保の観点からも迅速な取り組みが必要である。

施策⑭生物多様性について周知・啓発の推進

- 2014～2017年までは学芸員などによる市民向け自然環境講座が年10回行われ参加者も100人を超している。このような講座が重要なので復活してください。

施策⑮市民ボランティアを増やす

- 市民に自然に関する興味を持ってもらうことが重要で、そのための体験ができる場と情報とサポートについて、既往のボランティアなどと協力し、市民参加のプログラムを作り、市がサポートしていく必要があります。

施策⑯生物多様性に関する調査と資料・情報の収集・保存

- 生物多様性いちかわ戦略を実施したことによって、市川の自然環境保全・再生がどの程度達成されたかが分かる調査は必須である。その調査結果を定期的に市民に公表し、理解と協力を得ることが必要である。

施策⑰自然にふれあえる場の提供

- 子ども達が自然とふれあう講座をふやす。
- 自然環境の学習にはその場の提供が必要である。市内緑地の場の提供とさらなる場の拡大に向けた取組が市の重要な課題である。